

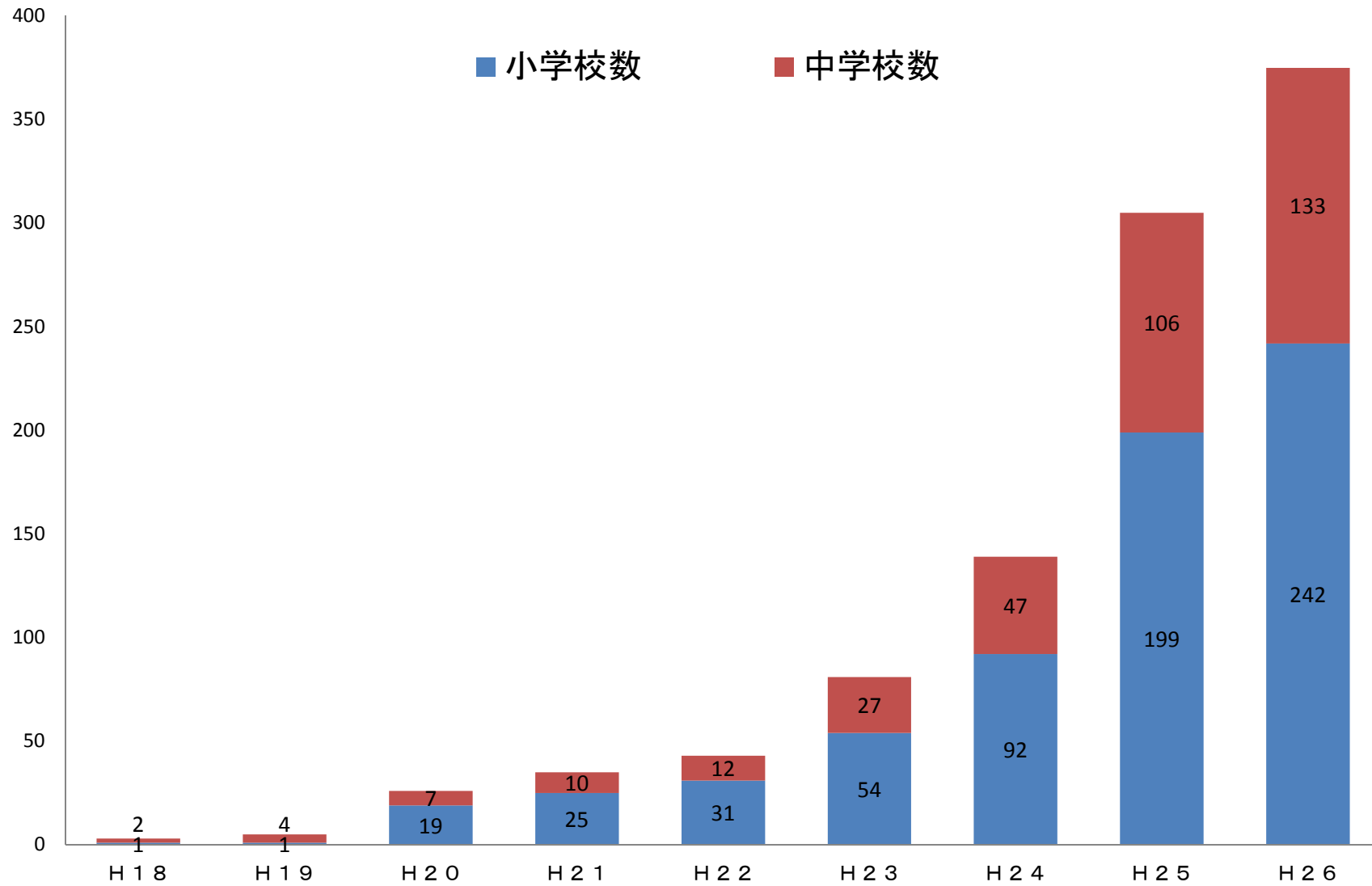
# 山口県におけるコミュニティ・スクールの導入と 充実に関する取組について



山口県PR本部長  
ちよるる

山口県教育委員会

# 1 山口県のコミュニティ・スクールの推移



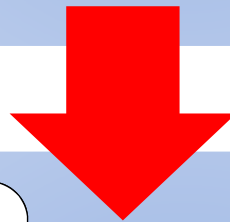
## 2 コミュニティ・スクール充実のねらいと仕掛け

### ■平成20年度全国学力・学習状況調査から、浮き彫りとなった課題

- ・学力の未定着
- ・学力の二極化
- ・市町間、学校間における学力の格差
- ・学習意欲の低下
- ・児童生徒の社会性の欠如
- ・教職員の取組格差

### ■以前から根本的な解決に至らずに残っている課題

- ・中学校の荒れの繰り返し
- ・小学校における学級王国（学力の学級間格差）
- ・交付税措置された予算取りの市町間格差



学校課題の解決に向けて

○児童生徒一人ひとりの学力保障と保護者や地域への説明

○教育の機会均等と教育の質の保障（水準の確保）

諸課題の解決に当たり、もはや学校独自の学校経営は限界

個に付くカリキュラム → 学校に付くカリキュラム → 地域に付くカリキュラム

### 3 コミュニティ・スクール導入のねらいと仕掛け

① 平成20年度教育委員会組織改編（教育事務所の廃止）

○各市町教育委員会の自立性・主体性の発揮（学校と教育委員会の関係性の向上）

- ・県内19市町への充て指導主事配置
- ・学校課題の解決を最優先とした学校教育課長の配置
- ・中学校区での担当指導主事制の導入

○県教委と市町教委との連携強化（一元化）

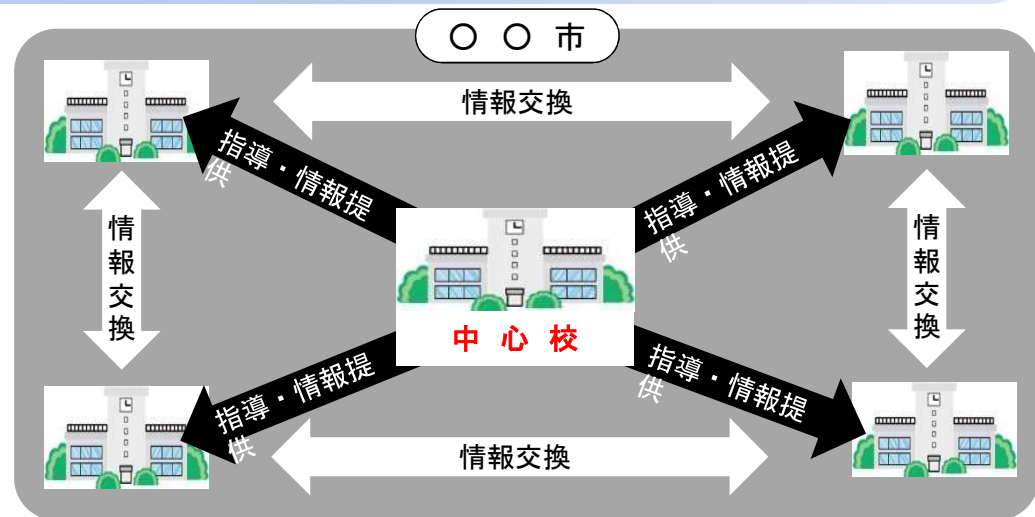
- ・義務教育課地域支援・人事班の設置  
学校訪問のべ回数3,000回程度（県内小中学校465校）
- ・県教委と市教委の合同研修会の開催（月1回）

○校長会の組織力の強化

- ・各市町「中心校制度」の導入・・・適材適所の配置



※組織の改編により、山口県教育委員会と各市町教育委員会の距離が縮まり、学校課題を県と市町が共有できるようになった。そこで、県の教育施策を各学校に一定の温度と鮮度を保ちながら届けるという状況を整備するとともに、全市に中心的な役割をもつ学校（中心校）を指定し、学校の横のつながりも一層強化していった。



## ② 学校経営の水準作成

### 【水準作成のねらいと取組】

#### ○学校経営の質の向上

- ・経営水準の明確化・・・「地域とともにある学校づくり」の視点の位置付け
- ・コミュニティ・スクール担当教諭の校務分掌への位置付け
- ・コミュニティ・スクールの取組や成果の共有



※校長の学校運営の水準にコミスクを位置付け、新任から3年目までの県内各小中学校長にコミスク運営に関する研修会への参加を義務付けた。研修会の一例としては、山口県のコミスク先進校を会場として、取組の成果や課題などの共有、授業参観、運営協議会委員との協議等を行っている。

I 学 校 経 営	3. 学校評価の充実度	① 学校評価への取組、改善	(2) 中間評価を1回以上実施し、改善に生かしている (3) 評価結果を積極的に公表し、保護者・地域の理解・参画を得ている (5) 組織的な取組により、学校の活性化や信頼される学校づくりにつながっている	/5	/5
	4. 学校安全・危機管理	① 学校安全・危機管理への取組	(2) 施設・設備、通学路、安全管理体制の点検を確実にし、適切に対応している (3) 学校安全計画や危機管理マニュアルを見直し、体制を整えている (5) 専門家と連携し危機管理に係る研修・訓練を積極的に行い、対応力の強化を図っている	/5	/5
	5. 管理職の参観等	① 授業参観・校内巡回の実施	(2) 管理職による校内巡回、授業参観を毎日行っている (3) 1日複数回の巡回を行い、情報を職員に共有している (5) 管理職が授業を頻繁に参観し、積極的な情報共有により成果を上げている	/5	/5
	6. 綱紀保持	① 綱紀保持の特徴的な取組	(2) 厳正な服務規律の確保を確実に指導している (3) 綱紀保持委員会が機能し、綱紀保持研修の内容が充実している (5) 綱紀保持についての職員の意識が高まり、先進的な取組を行っている	/5	/5
	7. 地域との連携	① 地域との連携・協働の方策	(2) 地域との連携・協働の方策・計画が明確である (3) 校務分掌上の地域担当が機能し、教職員全員が地域連携に参画する仕組みづくりがなされている。 (5) 地域協育ネットの展開、コミュニティ・スクールへの取組により、学校運営や教育活動が活性化し、地域から信頼されている	/5	/5

### ③ 社会教育との連携強化

#### 【連携のねらいと取組】

#### ○幼保小中連携による取組の促進（「地域協育ネット」の構想）

- ・つながる学びや育ち
- ・地域のための学校づくり（縦のつながりの充実）
- ・学校経営水準への位置付け
- ・研修会の充実
  - …コミスク担当者会議、学校関係者と地域関係者との合同研修会（H24～参加人数 のべ1,500人）
  - …地域コーディネーター育成講座（H23～H25に399人、H26に176人受講）
  - …熟議の為の出前講座

#### ○山口県の「めざす学校像」の共有

- ・地域に開かれた学校づくり
- ・地域に貢献できる学校づくり
- ・地域の人々の拠り所となる学校づくり



※学校支援地域本部等を母体として山口県独自に取り組んでいる「地域協育ネット」の構想とコミスクの導入を関連付け、山口県のめざす学校像を学校関係者と地域関係者が共有し、地域とともにある学校づくりに向けた取組を推進できる人材を育成する為の研修会を平成24年度から行っている。また、学校関係者と地域関係者との合同研修会、地域コーディネーター育成講座や学校運営協議会における熟議の為の出前講座等も社会教育所管課と義務教育課が連携して行うなど、コミスク導入の支援を多面的に行っている。



## ＜参考＞平成26年度の研修

月 日	会 場	対 象	内 容	備 考
6月14日(土)	山口県 セミナーパーク	・コムスク推進協力校 区等関係者 ・学校運営協議会委員	第1回コムスク研修会 (兼「第1回学校関係者と地域関係者の 合同研修会」) ・組織づくり	学校関係者 約150名 運営協議会 約150名
6月中旬	萩市立 萩東中学校	・新任校長	「フォローアップ研修会 ・マネジмент	1～3年校長 約120名
6月下旬	光市立 浅江中学校	・コムスク推進校関係者	第2回コムスク研修会 (兼「フォローアップ研修会」) ・マネジмент ・評価指標	新任校長 約80名 推進校校長 7名 推進校委員 10名
7月12日(土)	山口県 教育会館	・各学校長 ・コムスク学校運営協 議会委員等	第3回コムスク研修会 (兼「学校と地域の連携・協働に係る研 修会」) ・模擬熟議	学校関係者 約300名 運営協議会 約200名
8月5日(火)	下関市市民会館		全国コミュニティ・スクール研究大会	
10月11日(土)	山口県 教育会館	・推進協力校 区等学校関 係者	第4回コムスク研修会 (兼「第2回学校関係者と地域関係者の 合同研修会」) ・リアル熟議(デモ) ・具体的な取組事例 ・部会別協議	学校関係者 約150名 運営協議会 約150名
11月中旬	長門市立 深川小学校	・コムスク推進校関係者	第5回コムスク研修会 (兼「フォローアップ研修会」) ・マネジмент ・評価指標	3年目校長 約70名 推進校校長 10名 推進校委員 10名

◆指導主事・社会教育主事研修会(年3回)  
・コミュニティ・スクール及び地域協育ネット推進に関する会議

◆文部科学省研究指定校成果報告会(年1回)  
・指導主事、社会教育主事、研究指定校代表者を対象とした成果報告会議

◆社会教育所管課との連携研修(通年)  
・地域住民を対象とした地域コーディネーター育成講座  
・学校運営協議会や学校を対象とした学校運営協議会における熟議の為の出前講座

◆教育長自主研修会、県教委と市町教委の合同研修会、課長会議、課長フォーラム  
・コミュニティ・スクール導入や充実に関する研修

## 4 コミュニティ・スクール導入に向けた取組の具体

### ①市町教育長の意識改革

- ・ 学校将来像のイメージ化
- ・ 社会総がかりで子どもを育てる仕組みづくり
- ・ 地域に根づいたカリキュラムに基づく信頼される学校づくり
- ・ 地域間格差の認識
- ・ 学校の体質改善
- ・ 子どもの事実に基づく学校課題の把握
- ・ 少子高齢化
- ・ 地域コミュニティの衰退

### ②学校における校長の意識改革

- ・ 学校将来像のイメージ化
- ・ 地域貢献の在り方
- ・ 教職員の意識改革の図り方
- ・ 学校間格差の認識
- ・ 先進校からの学び



### ③教職員の意識改革

- ・ 若手教員の人材育成計画へのコミュニティ・スクール取組の位置付け
- ・ 若手教員のアイデアを生かせる学校運営協議会の仕組みづくり
- ・ 教員養成課程におけるコミュニティ・スクールに関する学び

### ④管理職の選考要件

- ・ コミスクによる学校づくりの視点

### ⑤地域への貢献

- ・ 生涯教育の拠点としての学校
- ・ 地域教育力再生の拠点としての学校
- ・ 大人が集まり、自ら楽しんだり仲間づくりをしたりする場としての学校

## 5 取組の成果と課題

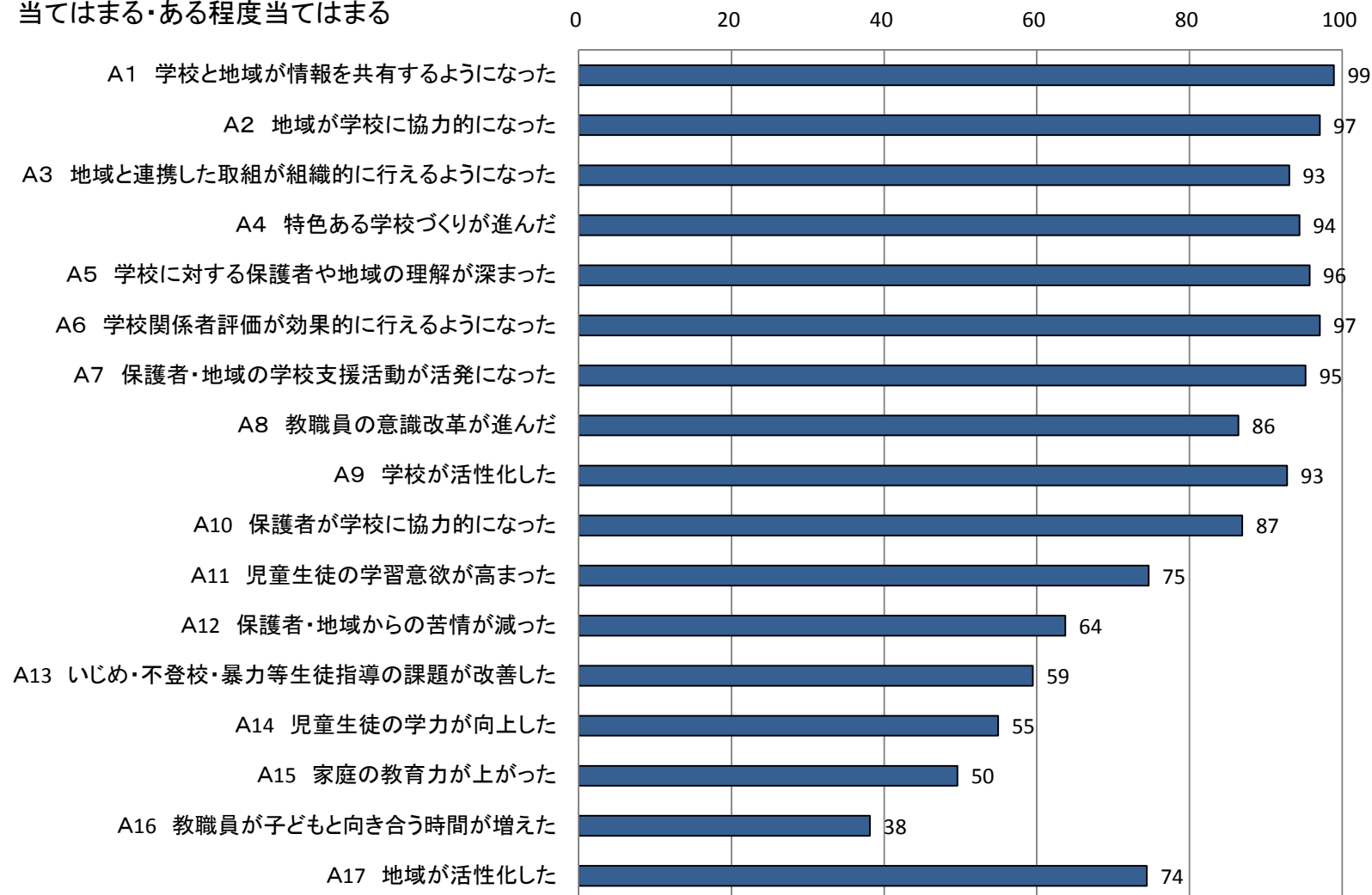
### (1) 各学校への実施状況・意識調査から

#### ① アンケート集計(2014年6月調査 小学校305校、中学校152校 計457校)

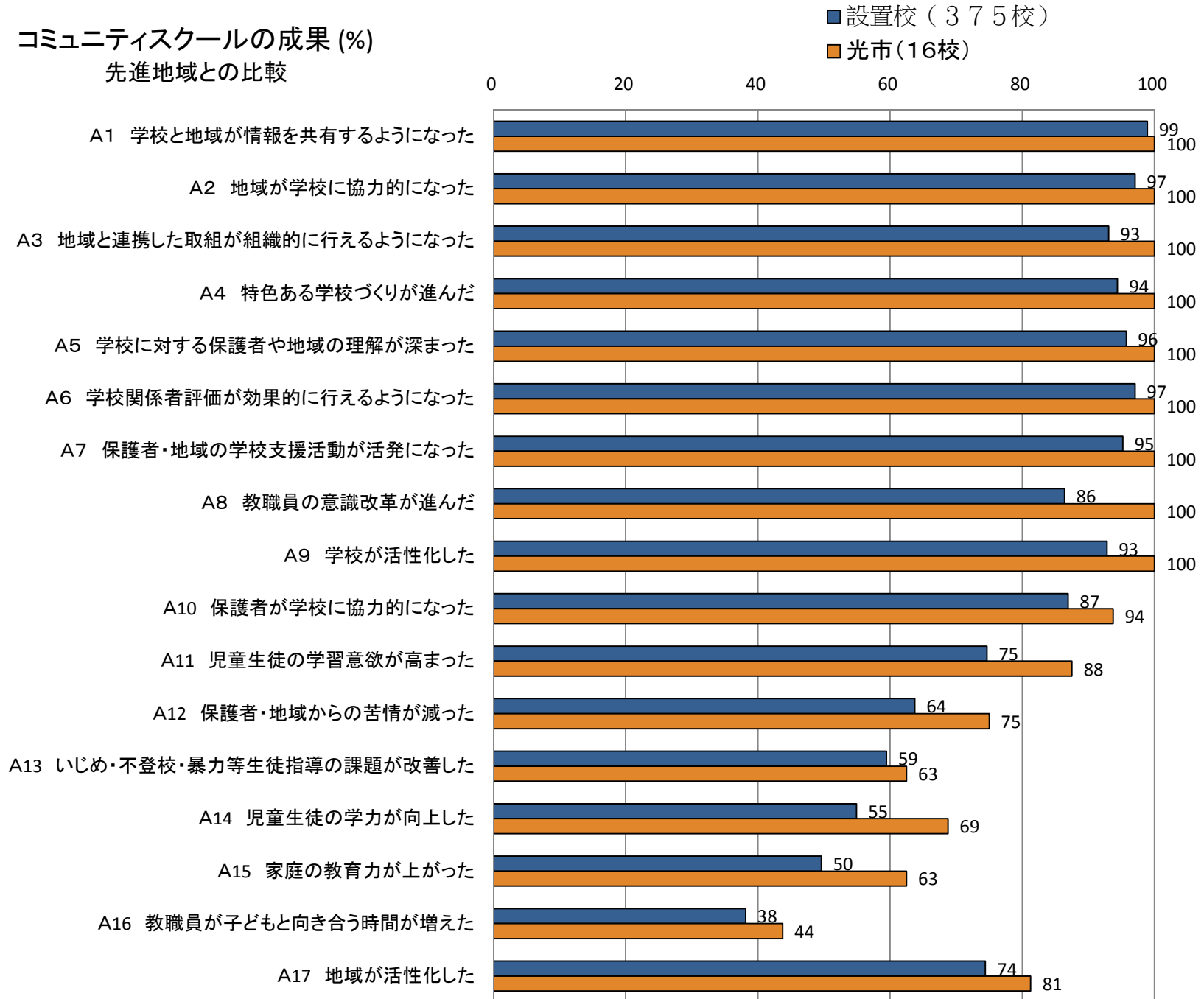
##### コミュニティスクールの成果 (%)

当てはまる・ある程度当てはまる

■ 設置校(375校)

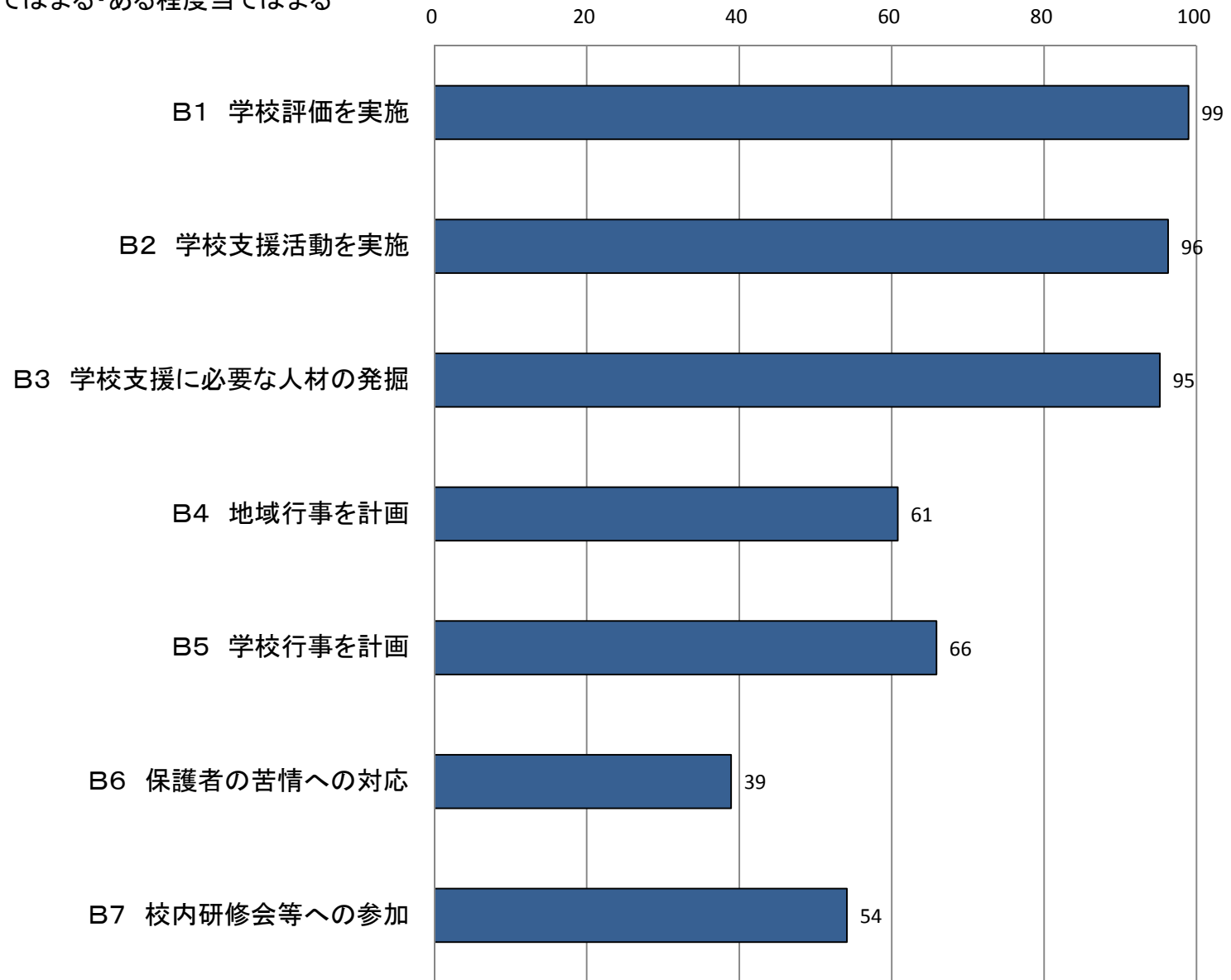


コミュニティスクールの成果 (%)  
先進地域との比較



学校運営協議会の活動 (%)  
当てはまる・ある程度当てはまる

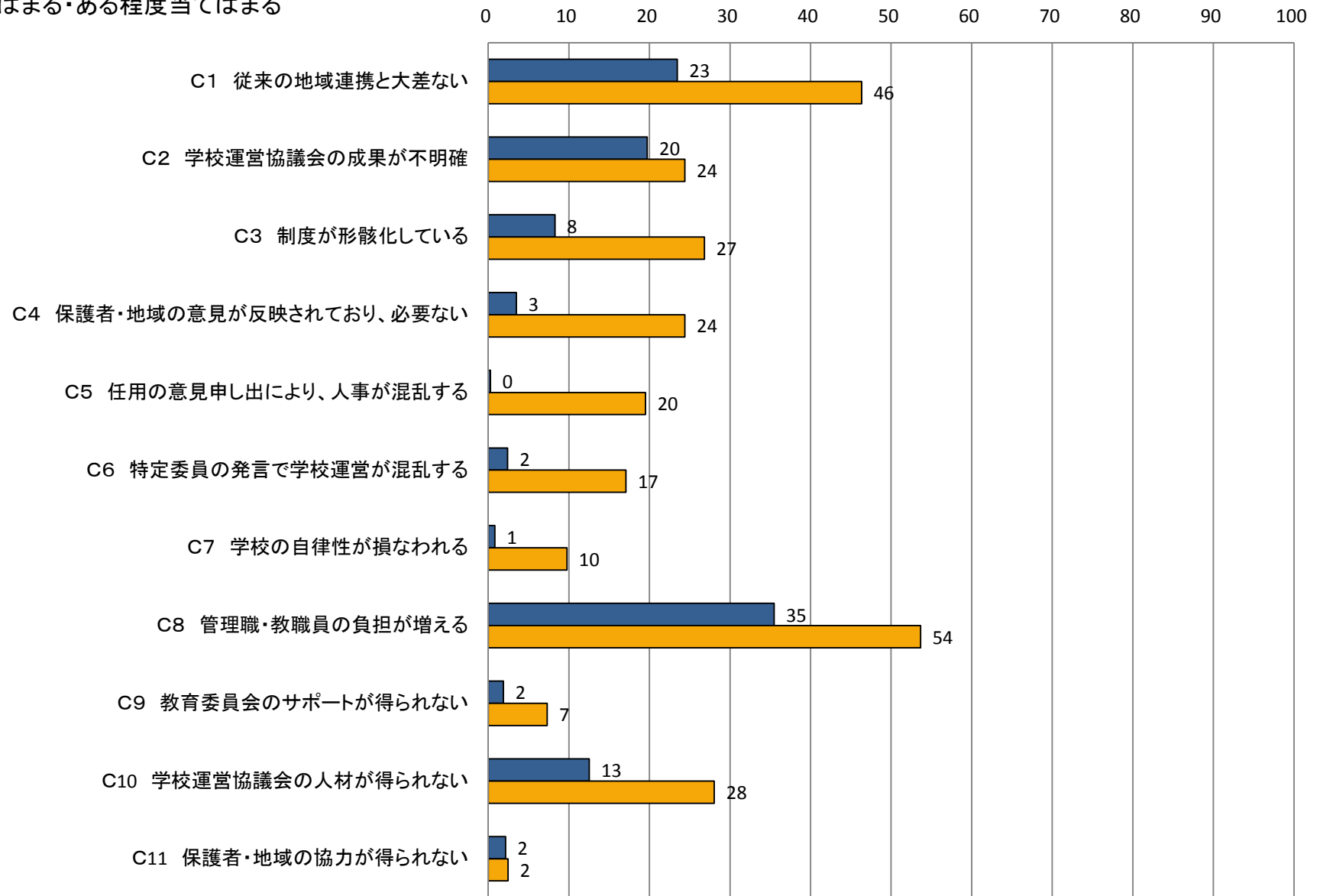
■設置校(375校)



# コミュニティスクールの課題 (%)

当てはまる・ある程度当てはまる

■ 設置校 (375校) ■ 未設置校 (82校)



## アンケート結果から

### ア 特徴

- ・コミスクが充実している学校は、地域との相互補完的な関係において成果を実感しており、地域の力を取り込んだ学校づくりを一層進めようとする意識が強い。
- ・コミスクの取組が管理職任せになっている学校では、地域との情報共有や教職員の意識改革が進んでおらず、児童生徒の学力向上や家庭や地域の教育力の向上、教職員が子どもと向き合う時間の確保などを実感するには至っていない。
- ・コミスクに対する理解は進んできており、設置校では成果を感じる教職員が増えてきているが、未設置校では人事面等の不安を抱えているケースも見られる。

### イ 問題点

- ・関係形成を重視しているが、共同運営を求めるには至っていない学校がある。
- ・これらの背後には、積極的に学校を開き、地域住民を招き入れることや授業公開を日常的に行い、適宜評価を受けることへの抵抗感がある。



## 取組の方向性

学校と地域が情報を共有し、連携した取組が行えるようになったという認識が強い。また、学校関係者評価も効果的に行えるようになり、教職員の意識改革も進んできたと考えている学校が増えてきた。一方で、立ち後れている学校もあることから、今後、より本質的な連携のあり方を学校内で共通理解することが必要である。

学校のもつ閉鎖的な状況や認識を打ち破り、地域とともにある学校づくりを進める為に、研修会をさらに充実させるとともに、山口県版プログラムを作成していく。



# 社会総がかりによる「地域教育力日本一」の取組の推進

「15歳は地域の担い手」  
「やまぐちCS」プログラム1年次

## やまぐちコミュニティ・スクール

学校支援・学校運営・地域貢献

## 社会総がかりによる「地域教育力日本一」の取組

### やさしい学校で温かい絆をつくる

「コミュニティ・スクールで子どもも地域の大人もイキイキとするやさしい学校づくり」をキャッチフレーズに、山口県では、学校・家庭・地域が一体となった社会総がかりによる「地域教育力日本一」の取組を推進しています。

この取組により、学校が地域の文化や交流の拠点として機能し、人と人をつなぐ温かい絆ができていきます。

私たちは、みんなで力を合わせて、山口県の未来をつくっていきます。

## 「やまぐちCS」の理念

### 「いい学校」は「いい地域」にできる

山口県では、たくさんの大人が、未来の担い手である子どもたちに本気で関心をもち、全力でかかわることができる「いい学校」をつくり出します。子どもたちは、たくさんの大人の後ろ姿を見て、学校を大好きになり、安心して学んだり、遊んだりできるようになります。

私たち一人ひとりが、「やまぐちCS」で地域の方とともに汗をかき、日本一「いい学校」をつくっていくことは、日本一「いい地域」をつくることにつながります。

このため、「やまぐちCS」は、「学校支援・学校運営・地域貢献」の3つの機能により、学校・家庭・地域の一体化を図っていきます。

学校課題を地域に開き、地域とともに解決していくという新しい発想が、これまで埋もれていた関係性を掘り起こし、人と人を結びつけ、社会関係資本の再生を図っていきます。

## 「やまぐちCS」3つの機能

### ★ 山口県の「めざす学校像」 ★

- 地域に開かれた学校
- 地域づくりに貢献できる学校
- 地域の人々の拠り所となる学校

「学校支援・学校運営・地域貢献」の3つの機能をもつ「やまぐちCS」により、全ての学校の教育水準と学校経営の質の向上を図り、山口県の「めざす学校像」を具現化していきます。

# 1 学校支援

- ボランティア活動を組織的に行うことで、効果的に学校の支援を図ります。
- ①ゲストティーチャー②学習補助③施設メンテナー④環境サポーターなどの取組が考えられます。
- 学校の様々な活動を地域のボランティアが支援することで、教育活動の充実や教員が子どもと向き合う時間の拡充を図ることなどが期待できます。
- 学校が子どもたちにとって豊かな体験の場となることが期待できます。

## 2 学校運営

- 学校が開かれ、組織が開かれ、授業が開かれます。
- 教職員が変わっても揺るがない学校ができあがります。
- 他の学校が真似をしたいと思えるような、わくわくする取組が行われます。

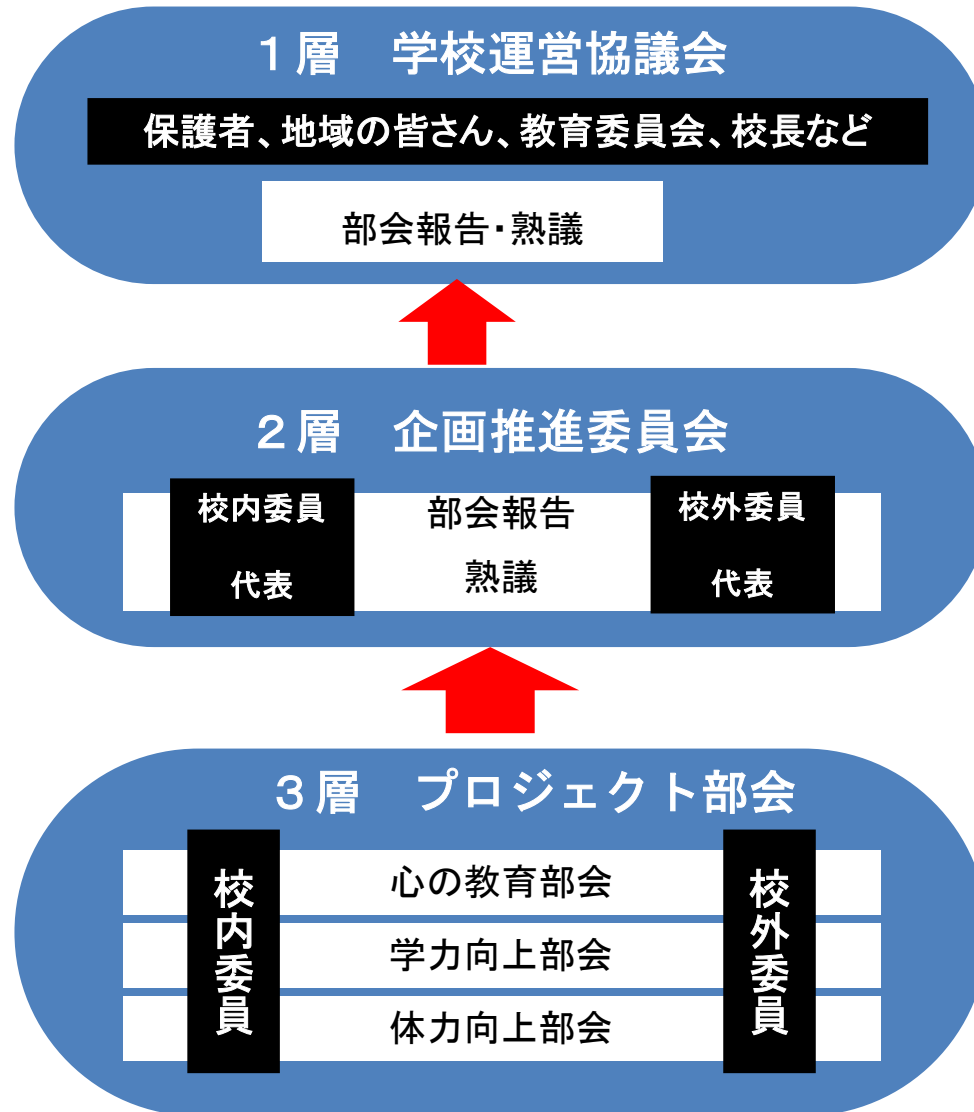
### 3 地域貢献

- 学校開放や地域行事等への参加により、子どもが地域の大人とふれあう機会や多様な経験をする機会を拡充します。
- 「大人の学び」から始まる関係づくりや絆づくりが、地域のつながりへと広がり、町づくりへと発展します。
- 地域住民が自らの経験や学習の成果を活用する場が広がり、生涯学習社会の実現に資するものとして期待できます。



# 「やまぐちCS」の仕組み例

## ■全教職員参加の枠組み例 3層構造が特徴



### ◎学校運営協議会

- 校長が作成する基本方針を承認する。
- 校長や教育委員会に意見を述べる。
- 教員の任用に関する意見を述べる。

### ◎企画推進委員会

- 各プロジェクト部会の意見について熟議する。
- 各プロジェクト部会の意見をまとめ、学校運営協議会に諮る情報を整理する。

### ◎プロジェクト部会

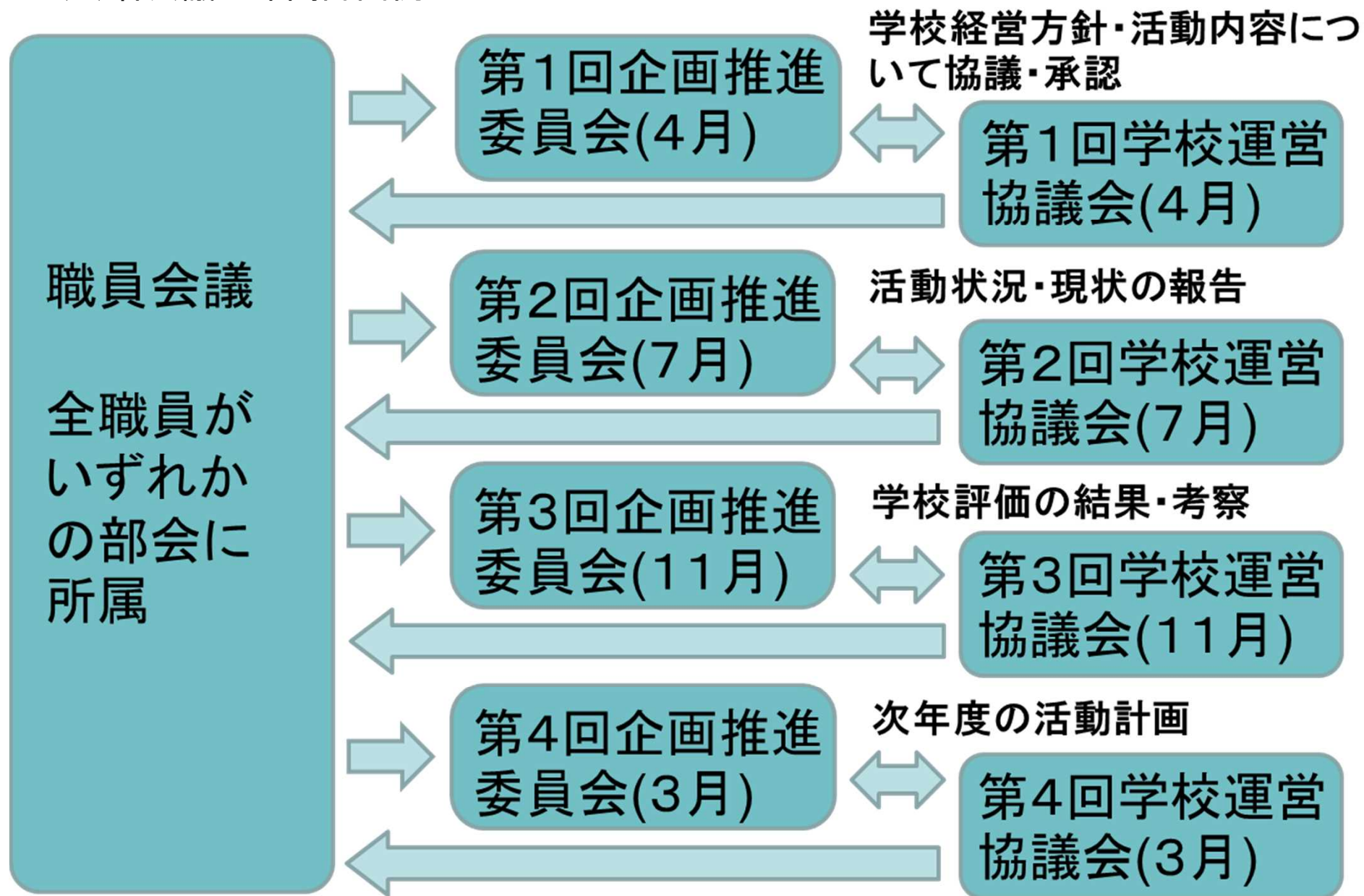
- 校内委員として、いずれかの部会に全教職員を配属する。
- 各部会の目標を設定する。
- 達成方法について協議し、実戦に向けた計画を練る。

# ■人材育成

## (1) 授業評価に関する組織づくり例

グループ	メンター	サポーター (チーム・リーダー)	1～3年目 教員	臨時採用(常勤・非常勤)	養教・学栄・事務	学校運営協議会 委員	アドバイザー	
A	①	数学	国語	数学	英語	事務	a	教育相談 特別支援 教務 研修
	②	保健体育	理科	社会	美術	養教	b	

(2) 各会議の年間計画例



### (3)各プロジェクト例

潮音寺山まつり支援	あさなえテスト勉強
敬老と福祉のつどい	あさなえテスト学習会Ⅱ
潮音寺山イルミネーション設置協力	地域の行事などのポスターづくり
迎春準備	ALTと会話しよう！
心を磨くトイレ掃除	早朝元気クラブ
虹ヶ浜松林の清掃活動	中学生による水泳・陸上教室
ふれあい授業	小学生の部活動見学
サンド・アート in 光	あさなえヘルシープラン
あさなえ学習会Ⅰ	ふれあい元気マラソン
響け！歌声	部活動活性化プラン

### ◎「やまぐちCS」取組例

#### ①授業評価の継続実施

「学校は地域のもの、授業は子どものももの」であるという考えのもと、私たちの授業を学習者や地域住民に評価してもらい、授業改善に生かします。

#### ②コミュニティルームの設置

地域住民がいつでも自由に学校に出入りし、落ち着ける居場所づくりをします。

#### ③小中一貫カリキュラムの作成

と教科担任制の導入・充実  
小中一貫カリキュラムを作成し、小学校での教科担任制を推進しながら、教科論でなく、授業論で議論できるようにします。



## 「やまぐちCS」の事例

○子どもたちは地域の担い手(郷土愛を育む地域貢献活動)

「地域の人々を守る取組がはじまりました」

[高齢者宅の剪定作業]

[地域の高齢者への弁当配達]



子どもが地域に出かけて行き、地域の方々とふれ合うことで、地域全体にあいさつの声  
が飛び交うようになり、明るい雰囲気醸成されていきます。

## 「やまぐちCS」の事例

### ○子どもたちは地域の担い手(郷土愛を育む地域貢献活動)

「地元ならではの産業の体験学習を通して、ふるさとで生きていくことを子どもたちは考えています」

[蜜柑農園や梨園での体験学習]

地元の主要産業である第一次産業業の担い手づくり



これまで行ってきた学校単独の取組に、学校運営協議会が加わることで、取組に価値付けがなされ、次代へと引き継がれていきます。



## 「やまぐちCS」の事例

### ○子どもたちは地域の担い手(郷土愛を育む地域貢献活動)

#### 「地域の文化を未来につなげる取組がはじまりました」

##### 〔郷土の宝虹ヶ浜の松林保全活動〕



- ・恵まれた自然環境をかけがえのない財産として、地域住民とともに主体的な参画のもと、長年にわたり保全活動を行っています。

海岸を中学生が守る、一生忘れない取組です。

##### 〔「ヨイショコショ節」の指導〕



- ・地域の伝統文化である「ヨイショコショ節」を地域の指導者の方に指導していただき、体育祭で披露しています。

これまでも見られた光景ですが、学校運営協議会がかかわることで、地域の伝統がとぎれません。

## 「やまぐちCS」の事例

○学校は地域の学び場(学校愛を育む地域貢献活動)  
～学校が地域の人々をつなげ、地域を未来へつなぎます～

「大人の学びがはじまりました」  
(地域住民対象の公開講座)

[地域住民対象のALTによる英語学習]



学校の授業を受けたい大人が出現。授業は地域の文化へステージを広げます。

[茅でのバツタづくり]



学校でつながる大人は、地域のつながりをつくり出します。それは、町づくりのはじまりです。

## 「やまぐちCS」の事例

○学校は地域の学び場(学校愛を育む地域貢献活動)  
～学校が地域の人々をつなげ、地域を未来へつなぎます～

「地域ぐるみの健康づくりがはじまりました」

【早朝元気クラブのウォーキング】



朝練習を行う中学生と一緒に地域の方が健康づくりを行っています。

KRYラジオから・・・「本当にありがとうございました。毎週木曜日、天気がよいことを祈っています。中学生に元気をもらっています」

「地域住民が気軽に立ち寄れる学校づくりを行っています」

【深川小レストランのオープン】



月一度、コミュニティルームをレストランにして、地域の方に料理を振る舞っています。

本当に楽しそうです。「食」についての学びは、大人を結びつけます。



# 成果と課題の検証

## これまでの学校の課題

### 閉ざされた空間

- 学習者や地域の声に耳を傾けることが少なく、どちらかといえば閉鎖性が強い傾向にあることから、成果の検証や競争による向上に無関心である。

### 学級王国

- 担任の指導による固定化した人間関係の形成により、強固な集団意識をもつ一方で、学級担任以外からの指導を容認しない閉鎖的な学級集団である。

### 情報のブラックボックス

- 内部の構造が不明で、様々な情報が外部に公開されることが少ないことから、校内で起こっている様々な課題への対応が硬直化してしまう状況である。

# 成果と課題の検証

「やまぐちCS」導入、これからの山口県の学校は、こう変わる

## 課題と成果の共有

- 学校運営協議会を通して学校の目標に対する成果や課題を全員で共有するとともに、課題解決に向けた取組をそれぞれの立場で実践・継続する。

## 学習者や地域による評価

- 教育を受ける側の意見や評価を積極的に求めることにより、課題解決に向けた効果的な改善策を模索し、地域と協働しながら解決に向かう。

## 教育方法や教育効果の競争

- 勝ち負けでなく、よい取組を互いに紹介し合い、真似ることで高め合うことにより、学びに向かうための緊張感を意識的に生み出していく。

## ●これからの取組として●

- 学校が開かれ、組織が開かれ、授業が開かれている。
- 活動開始後、教職員が変わっても5年間継続可能な取組を行っている。
- 他の学校が真似して、次々に広まっていくようなやり方を工夫している。



### 1 学校支援

- 保護者や地域住民がボランティアで積極的に学校に関わっている。
- 多くの方の協力により、学校が活性化している。
- 保護者が、学校に協力的になっている。
- 児童生徒の学習意欲が高まっている。
- 教職員が子どもと向き合う時間が増えている。
- 学校支援に必要な人材の発掘が進んでいる。
- 学校の施設や環境が整備されている。

## 2 学校運営

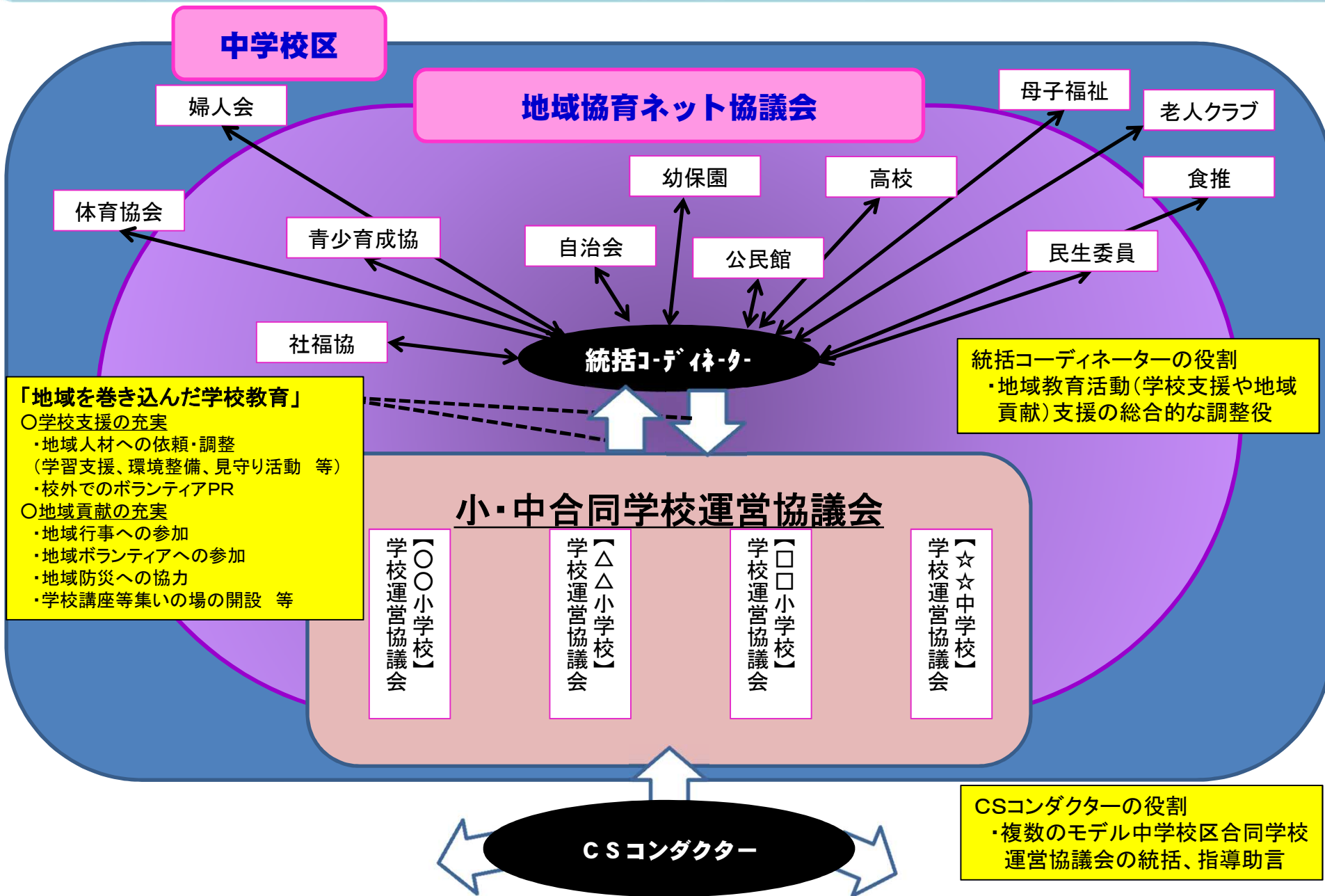
- 学校の課題や成果を公表し、保護者や地域住民の理解や承認を得ている。
- 学校に対する保護者や地域の理解が深まっている。
- 学校関係者評価が効果的に行えるようになっている。
- 保護者や地域からの苦情が減っている。
- 学校と地域が情報を共有するようになっている。
- 地域と連携した取組が組織的に行えるようになっている。
- 家庭の教育力が上がっている。



### 3 地域貢献

- 保護者や地域住民が、日常的に学校を訪れる雰囲気が醸成されている。
- 教員の意識改革が進んでいる。
- いじめ・不登校・暴力等生徒指導の課題が改善している。
- 地域が活性化している。
- 地域行事に教職員や生徒が積極的に参加している。
- 特色ある学校づくりが進んでいる。
- 「大人の学び」を支援する風土がある。

# やまぐちCSネット構想 - コミュニティ・スクールを基盤とした山口型地域連携教育の推進 -



# 住民意識調査について

地域住民の学校に対する考えや関係性、要望等を把握することでコミュニティ・スクールに関する取組を見直すきっかけとし、学校を核とした地域活性化の取組の充実や地域とのよりよい関係づくりや地域住民のコミュニティ・スクールへの参画意識の向上に資する。

- ・各市町の人口から抽出数を算出し、実施する。(6月実施予定)
  - ・ニーズの把握などの質問用紙とともにコミュニティ・スクールの取組のダイジェスト版や、来校・取組への参画などを促すお知らせを配付し、地域住民にコミュニティ・スクールの周知や参画意識の高揚を図る。
  - ・調査は業者委託する。
- ☆経年変化を追うことで、各地域におけるコミュニティ・スクールの浸透具合や効果、課題が見え、研修等の内容や取組などに効果的に対応できる。



## 住民意識調査

- ・地域住民の学校との関係性の把握
- ・ニーズの把握
- ・取組の課題の理解
- ・効果の確認など

## 調査結果をもとに

- ・要望に合った取組の展開
- ・学校運営協議会委員の研修の充実
- ・好事例の紹介など

地域住民の参画意識

地域住民の認知度

地域住民の認知度の高まり

地域住民の参画意識の高揚

学校との関係性の発展

地域の活性化

学校を核にした  
地域づくりの  
好循環の一助

